

地域医療連携推進法人 上川北部医療連携推進機構
令和7年度（2025年度）第1回地域医療連携推進評議会 議事録

1 日 時

令和7年（2025年）10月21日（火）16:00～17:00

2 場 所

名寄市立総合病院（新館3階会議室1・2）及びオンライン（Zoom）

3 評議員総数

6名

4 評議員

（会場）橋本 正道、山岸 真理、向井 豊文

（オンライン）法邑 和浩、鈴木 勉、守屋 潔

（欠席）萬谷 千絵

5 提案者

代表理事 佐古 和廣

6 議 事

報告事項

（1）令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画について

・評議員から意見なし

（2）令和6年度決算報告及び令和7年度収支予算書について

・評議員から意見なし

（3）名寄東病院再整備の状況について

・評議員から意見なし

（4）士別市立病院再整備の状況について

・評議員から意見なし

7 意見交換

（守屋評議員）

ご自身のこれまでの医療現場での経験を踏まえ、地域における医療連携ネットワークの重要性について具体的な事例を交えて説明があった。特に、医療機関同士が円滑に情報を共有し、患者の診療情報を適切に活用できる体制を整えることが、地域医療の質の向上や効率化に直結するとの話があった。

また、このような連携をより効果的に進めるためには、医療 DX の推進が不可欠であり、電子カルテの共有化、データ基盤の整備、AI の活用など、デジタル技術を積極的に導入していく必要があるとの考えが示された。

総じて、守屋評議員からは、経験に基づく医療連携の重要性と、今後の医療 DX 推進の必要性について意見が述べられた。

(橋本評議員)

高齢者医療のあり方について、医療費の課題を含めた「持続可能な仕組みづくり」が今後の大きなテーマになるとの話があった。特に、終末期医療を見据え、地域としてどのように医療を提供していくかを計画的に検討することの重要性が述べられた。

また、医療費そのものの増減に注目するだけでなく、「受診の仕方」や「地域で実践できる具体的なモデルづくり」に取り組むことが重要であると強調した。

さらに、今後は医療だけでなく介護分野の需要も増加していくことが見込まれるため、終末期医療のあり方を含め、地域全体で幅広く議論を重ねていく必要があるとの提案がなされた。

(法邑評議員)

士別市立病院の再整備に関する基本的な考え方について意見が述べられ、これまでの検討経過を踏まえながら、今後どのような方向性で施設機能を再構築していくべきかという視点が示された。

また、再整備に向けた今後のスケジュールについては、関係者間で情報を共有し、計画的かつ段階的に進めていくことの重要性が指摘された。さらに、病院の将来的な役割や地域医療との連携体制の位置づけについては、現時点で性急に結論を出すのではなく、さまざまな立場や視点から意見を交わし、より多角的な検討を行うことが必要であるとの考えが示された。

これらを踏まえ、今後も継続的に議論を重ねながら、地域にとって最も望ましい再整備の方向性を見極めていくことが確認された。

(鈴木評議員)

士別市立病院が地域住民にとって欠かすことのできない重要な病院であり、地域医療を支える中核的な役割を果たしていることを改めて強調する発言があった。

一方で、公立病院を現状のまま維持していくことは財政的にも人的にも非常に厳しい状況にあることに触れ、持続可能な運営のあり方を慎重に検討していく必要があるとの意見が示された。

さらに、病院の再整備や経営方針を検討する際には、地域住民や自治体に過度な負担がかからないよう配慮しつつ、効率的かつ実現可能な仕組みを構築していくことが望ましいと述べ、地域全体で知恵を出し合いながら現実的な方向性を模索していくことの重要性が話された。